

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	EA	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	4	派遣国	イギリス
派遣大学	キール大学		
期 間	2025 年 9 月 18 日～ 2026 年 6 月 13 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	× (ヒーター)	冷蔵庫	○
滞在費	約 (120,000) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩) で、約 (3～5) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費 (1 £ = 208 円計算)

項 目	金 額	内 訳
食費	約 20,000 円	週に大体 20 £ で収まるように買い物をしていました。
学用品購入費	0 円	
交通費	約 8,000 円	最寄りのスーパーに行くのに、往復 4.8 £ 掛かります。また遊ぶ際は、大抵電車を利用するので、その距離によっても変動します。
交際費	約 10,000 円	月によって変動します。旅行に行った際は、より消費しました。
その他	約 3,700 円	洗濯
合計	約 41,700 円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

治安は良い地域だと思います。イギリスの中でも田舎な地域であり、最寄りのスーパーや町には、家族連れや高齢者・キール大学の学生が多く見られます。最寄りの Stoke-on-Trent 駅も危険性を感じたことはありません。ただ、5月に入り今まで見かけなかったホームレスの方が増えたと感じています。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	Immigration of Health Surcharge (IHS)		
加入期間	(9) ヶ月間	保険料	(776 £) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	東京海上日動の海外旅行保険		
加入期間	(9) ヶ月間	保険料	(93,080 円) 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町 (Staffordshire/Newcastle Under Lyme)

スーパーや日用品は、キャンパスからバスで 15 分程度の場所にある Newcastle Under Lyme で買い揃えることができます。比較的大きなスーパーが 4 つ近くに位置しているので、食料品を購入する際は価格や目的に合わせて利用していました。

キャンパスが最寄りの町や駅から離れているので、バスを使うことが多いのですが、一番近いスーパーに行く時でも、往復 4.8£ 掛かってしまうので、乗り降りを複数回する際は、First bus の smart day ticket (4.8£) を購入し利用することをお勧めします！（損はせず、お得なのでぜひ！）

また、ポンドランドやホームバーゲンという安価で日用品を購入できるお店も Newcastle Under Lyme にあるので、費用を抑えたいときに覗いてみることもお勧めです。

Stoke-on Trent は、pottery が有名なので、週末に色々な陶器屋さんを訪れることをお勧めします！お得に可愛い商品を購入できるので、お土産にもピッタリです。また、Newcastle Under Lyme にはインド料理や中華料理など美味しいレストランがあるので、ぜひ同じ留学生や友人達と訪れてみてください！

【学業編】

1. 大学情報

大学	キール大学	所在地	Staffordshire/Newcastle Under Lyme
最寄空港	マンチェスター空港	空港からの距離	1 時間半から 2 時間程度
空港⇄大学	(キャンパスから最寄り駅までバス→電車で空港へ(乗り換え 1 回) *移動手段		
学生数	不明ですが横市よりは多い	留学生数	不明
学部	<p>たくさんの学部が存在するため下記サイトの参照をお勧めします。 https://www.keele.ac.uk/study/undergraduate/undergraduatecourses/</p> <p>*留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。</p>		
学部/専攻	<p>留学生は専攻に関わらず、個人の興味関心に合わせて好きな講義を履修できます。 *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。</p>		

2. 週間スケジュール

① (9)月～(12)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		Human and Physical Geographies for a Changing World [GEG-10017-2025-SEM1-A]		Allotment society へ(2 週間に 1 回程度) 日本語ボランティア	Space and Society [GEG-20015-2025-SEM1-A]
午後	予習	British Cultural Studies [ENL-10030-2025-SEM1-A]	課題と予習	English for Academic Purposes 3 (EAP 3) [ENL-90001-2025-SEM1-2-A]	Human and Physical Geographies for a Changing World [GEG-10017-2025-SEM1-A] バドミントン ソサエティ

② (1)月～(5)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	就活	就活	Social and Spatial Justice [GEG-30041-2025-SEM2-A]	日本語ボランティア	予習
午後	自由時間	課題と予習 Japanese society event	Sustainable Staffordshire [GEG-10019-2025-SEM2-A]	English for Academic Purposes 3 (EAP 3) [ENL-90001-2025-SEM1-2-A]	Environmental Politics and Policy [PIR-20067-2025-SEM2-A]

3. 履修内容

科目	Human and Physical Geographies for a Changing World [GEG-10017-2025-SEM1-A]		
履修期間	Semester1	単位数	30
授業内容／形態	Human と physical 地理学の基礎を学ぶ。1 週間に 2 回講義があり、1 回は Human,もう 1 回は physical と別日に行われる。教授も分野ごとに変わる。主にレクチャースタイルで、授業の終わりにスモールディスカッションがある。最終課題は、2000 文字×3つのレポートで提出期限も近かったため、課題の重さは感じたが、学んだトピックから興味のあるものを掘り下げられる点は良いと思う。		
成績	71		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	British Cultural Studies [ENL-10030-2025-SEM1-A]		
履修期間	Semester1	単位数	15
授業内容／形態	イギリスの文化や歴史を各週異なるテーマで学ぶ。パブの歴史や地域ごとのアクセントの違い、ロイヤルファミリーについてなど、スライドをベースに学んだ。最終課題は、各週の講義の感想と 3～4 人で構成されたグループで、講義の中で 1 番印象に残ったものを 1 つ取り上げ、動画を作成する 2 つだった。動画は、自由にテーマを選べるため、メンバーと楽しく作成でき、最後はクラスメイト全員で、動画を鑑賞した。		
成績	60		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Space and Society [GEG-20015-2025-SEM1-A]		
履修期間	Semester1	単位数	15
授業内容／形態	人文地理学の分野で、地理学的概念から過去や現代の社会課題について考える。講義は lecture スタイルだが、後半に tutorial のような少人数でディスカッションをする時間があった。15 人程度の少人数で、課題は中間と最終で、2000 文字ずつのレポートを提出した。		

成績	74	
YCU 振替予定	科目	
	単位数	
	担当教員	

科目	English for Academic Purposes 3 (EAP 3) [ENL-90001-2025-SEM1-2-A]		
履修期間	Semester1&2	単位数	15
授業内容／形態	到着後に受けた英語の能力テストの結果によりクラスが分けられ、英語の4技能の向上を目指す講義。主に writing にフォーカスされた講義が多かったと感じており、生徒の課題の種類に応じて、エッセイの書き方やディスカッションの方法等を学ぶ。クラス分けをするためのレベル分けテストは行われたものの実際は1クラスで、20～30人程度で構成されていた。		
成績	未定		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Social and Spatial Justice [GEG-30041-2025-SEM2-A]		
履修期間	Semester2	単位数	15
授業内容／形態	不平等と不正義を軸に、医療の配分や分布、農村にクラス人を対象に問題やそれに対してどう対応すべきかを考える講義。主にレクチャースタイルだが、講義の後半にはディスカッションの時間がある。課題は2000字のレポートを中間と最終で提出した。Health/ rural area をテーマに其々構成を考える必要がある。		
成績	未定		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Sustainable Staffordshire [GEG-10019-2025-SEM2-A]		
履修期間	Semester2	単位数	15

授業内容／形態	大学が位置している Staffordshire に焦点を当てて、サステナビリティとドーナツエコノミーの観点から学ぶ。学期の中ごろに、実際に街を歩いて、Staffordshire の現状をしるフィールドワークがある。課題は 2000 字のレポートが 1 つとグループで動画を 1 つ作成する課題が 1 つだった。		
成績	未定		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Environmental Politics and Policy [PIR-20067-2025-SEM2-A]		
履修期間	Semester2	単位数	15
授業内容／形態	Lecture と seminar が 1 時間ずつの計 2 時間の講義だ。過去から現代にいたるまでの環境に関する協定や運動を主に学ぶ。ディスカッションは約 30 分行った。課題は、1000 文字のレポートと 1500 字のレポートの 2 つだった。		
成績	未定		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

【大学生活】

1 番大きな違いだと感じたのは授業形態だ。日本では講義を聞く Lecture スタイルが一般的だが、キールでは、Lecture と Seminar/ Tutorial の構成が一般的だった。講義で学んだことを Seminar の時間でアウトプットするので、講義内容を理解しておかなければ議論に入れない。そのため、予習を徹底する重要性を実感した。また、日本では出席の〇〇%が成績の一定数を占めるため、講義への出席に重きが置かれがちだが、キールでは出席ではなく課題で全て評価が決まる。そのため、課題提出前には、教授から課題に対する説明があったり、実際に構想や下書きを見せアドバイスをもらったりする機会が設けられており、不安点を取り除くことができた。更に、課題提出後にはフィードバックが返却されるので、良かった点・改善点等を知ることができる。もう 1 つ良かった点は、講義が全て録画されており、教材としてアップロードされることだ。講義で聞き逃してしまった箇所や、体調不良で欠席してしまった際にも活用できる。このように、キール大学では、より授業内容を理解する事点考える事に重きが置かれていると感じた。ただ聞くだけではなく、理解した上で考える・意見をシェアするといった時間が多く、興味深く学びを深めることができた。

【日常生活】

やはり 1 番大きな印象は多様性だ。キール大学はイギリスの中でも地方部に該当する。日本の地方だと日本人比率が高く、外国人は珍しいだろう。だが、イギリスは多様なバックグラウンドを持つ人が暮らしているため、自分だけが違うという認識を感じることは一度もなかった。大学でも、多様な文化や背景への理解があり、其々を尊重するソサエティやイベントがあることも非常に印象的だった。寮は、14 人でキッチンやバスルームをシェアしていたのだが、国籍も多様でパブに行ったり、一緒に食事を作ったりと心地よく過ごすことができた。

また、イギリスでは家族と過ごすことがとても大切にされていると感じる。クリスマスやイースターといった大きなイベントだけでなく、祖母や親せきの誕生日会に必ず出席している友人が印象的だった。家族や周囲の人を大切にする文化はとても素敵だと実感した。更に、イギリス人は大らかな人が多いとも感じた。バスや電車の遅延・キャンセルが日常で発生することが多いのだが、待ち時間に隣同士の人と話したり、普通に受け入れたりしている点に当初は驚いた。また、すれ違う人も笑顔で挨拶してくれたり、雑談したりしてくれるフレンドリーさも、日常生活を過ごすうえで、1 つの楽しみだった。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

留学後の主な目標は2つだ。

1 つは卒業論文の執筆だ。留学前にテーマは決めていたものの、思うように現地で進められなかったため、テーマの再考をする必要がある。留学を通して新たに興味が沸いた点もあるので、もう一度構成を見直したい。また、留学中に、「参考文献がその論文の出来を左右する」事を学んだので、しっかり文献を読み込むようにしたい。

2 つ目は、英語力の向上だ。留学を通してアウトプットの大切さを実感したので、英語を使う環境を意識して作りたい。加えて、単語力の幅を広げたいので、Reading や Writing を通してインプットすることも継続して行いたい。また、留学中に何度も現地の友人の優しさに助けられたので、私も留学生の助けになれるようなボランティアやチューター業務に取り組みたいと思う。

また、留学中に多様な人・国・文化に触れ、より多くの国で新たな人に出会いたいという思いが強くなった。最終学年であるので、残り時間を使って新しい土地に行くことも今年の目標の1つだ。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

1 年間の留学は長いようで短いです。留学開始時は、見知らぬ土地・人ばかりで不安が大きかったり、1 歩踏み出すことを躊躇ったりしてしまうかもしれません。環境に適応するために時間を要してしまうとも思います。でも、「英語力」や「未知さ」に不安を感じたときは、1 歩踏み出す勇気を持つことも大切だと実感しました。完璧さよりも伝える気持ち、分からないことは些細なことでも聞いて大丈夫です！周囲は思っているより優しいし、むしろ分からず何も言わないことで、生まれてしまう距離もあります。一歩踏み出す勇気を持てば、思っていたよりなんとかなると思います。だからこそ、挑戦と楽しむことを第一に留学生活を送ってほしいです。一方で、計画的に動くことも大切だと思います。授業についていくには、予習・復習や課題をこなすことが大切です。日本とは異なり、少人数クラスやディスカッションが講義の主な構成です。小さな行動が自信に繋がっていくと思うので、計画的に授業に打ち込み、充実した留学生活になるよう頑張ってください！応援しています。